

(様式第3号)

令和6年度調査研究中間報告書

調査研究課題	茨城県における SFTS ウイルス等モニタリング調査				
担当者	上野恵、田口もなみ、小室慶子、大久保朝香、絹川恵里奈、坪山勝平、大澤修一、阿部櫻子				
計画期間	令和5年度～令和9年度 5年間				
経費	年度	令和5年度	令和6年度	計	
	計画額	300千円	300千円	600千円	
	実績額	300千円	-	300千円	
調査研究計画	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は西日本を中心に患者が報告されている。SFTS ウイルス保有マダニによる刺咬や感染動物との接触による感染のほか、ヒト-ヒト感染例も報告されている。本県における SFTS に関する疫学情報は乏しいため、ヒト、動物及びマダニについて SFTS ウイルス感染状況を調査し、県内の浸潤状況を評価する。また、研究成果に基づいて、県民や関係機関等に情報提供及び注意喚起を行っていく。				
進捗状況	感染症発生動向調査にて搬入があった患者 537 検体について、SFTS ウイルス遺伝子検出検査を実施した。令和元年度～5 年度に県内で捕獲されたイノシシ 880 検体について、SFTS ウイルス遺伝子検出検査及び ELISA 法による抗 SFTS ウイルス抗体検出検査を実施した。また、令和5 年度に県動物指導センターに収容されたイヌ 39 検体についても、同様に検査を実施した。マダニについては、令和5年に採取した 3,378 匹について SFTS ウイルス遺伝子検出検査を実施した。				
これまでの成果の概要	○検査成績				
		ヒト患者	イノシシ	イヌ	マダニ
	検査数	537	880	39	3,378
	遺伝子陽性	0	0	0	0
	抗体陽性	確定検査依頼中			
○SFTS に関する情報提供及び注意喚起として、茨城県公衆衛生獣医師協議会研修会（令和5年11月18日開催）にて講演し、行政獣医師に対して注意喚起した。また、茨城県獣医師会会報（令和6年5月発行、No.101）に「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の最近の知見について」として投稿し、獣医師会会員への注意喚起を行った。					

<p>今後の 計画・課題 対応方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的、行政的にどのように役立つと考えられる。 <p>県内の浸潤状況解明には幅広い動物種での検査が必要であり、さらに関係機関と協働を進め動物検体確保につとめる必要がある。イヌ・ネコは SFTS ウイルス感受性が高く、飼い主等の感染例が多く報告されているため特に検査体制拡充が必要である。令和 6 年度から駆除アライグマ、民間動物病院からのイヌ・ネコ検体の検査を開始する予定である。</p>
-------------------------------	--

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。

中間評価結果報告書

令和 6 年 9 月 3 0 日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会
委員長 木村 博一

調査研究課題	茨城県におけるSFTSウイルス等モニタリング調査
--------	--------------------------

評価項目	評価	意見	備考			
①必要性	5, 5, 5, 5, 5, 5, 5 平均評価点 5.0	地球温暖化などの影響もあり、感染症の発生状況が変化していく中で必要な研究テーマである。				
②進捗状況	4, 5, 5, 5, 5, 5, 4 平均評価点 4.7	検体となる動物や昆虫の数も妥当であり、研究計画に沿って進んでいる。				
③計画の妥当性	4, 5, 5, 5, 5, 5, 4 平均評価点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> 妥当と考える。飼われている犬や猫の調査も重要と考える。 野生動物および犬、猫の検査頭数の確保や検出が困難な場合はダニの採取の場所、方法の工夫が必要ではないか。 				
④目標の達成及び活用可能性	5, 5, 5, 5, 5, 5, 4 平均評価点 4.9	<ul style="list-style-type: none"> このまま進めば目標の達成は可能であり、県内での分布状況や注意すべき点など県民への啓発にも活用できる。 臨床現場での SFTS の知名度、理解を更に深める活動が必要だと思われる。ヒト検体での抗体測定も検討いただきたい。 				
⑤総合評価	4, 5, 5, 5, 5, 5, 4 平均評価点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> 本研究は、ダニ媒介性感染症のサーベイランス研究として公衆衛生的に重要である。特定の病原体に焦点を当てず、NGS 解析によるダニ由来検体の病原体網羅解析を行うべきと考える。 県南地域ではハクビシンも多くみられているため、調査対象動物のさらなる拡大も視野に入れてはどうか。 				
⑥継続実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A：7人 B： C：					
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">最終評価</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A</td> <td style="width: 30px; height: 30px;">B</td> <td style="width: 30px; height: 30px;">C</td> </tr> </table> </div>	A	B	C	<p>評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)</p>
A	B	C				

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好